

東日本大震災から 4 年半

今日 9 月 11 日は東日本大震災・福島原発事故から 4 年半である。それと、この地域を襲った東海豪雨から 15 年が経つ。昨日は栃木・茨城・福島などで大雨により大きな被害があった。宮城も被害が懸念されている。東海豪雨についてもレポートしたいが、今日は東日本大震災について書いていこう。

4 年半前のこの日、岩手県宮古市に来ていた。前日に岩手大学で地方財政学会シンポジウムがあり、盛岡に泊まった。翌朝一番の高速バスで緊張しながら宮古に向かった。険しい山道の国道 106 号を 2 時間余り揺られ、宮古駅前に着いた。

まずは「復興支援地図」コピーを見ながら、宮古市役所に向けて歩いた。この地図は重宝している。震災後に緊急出版され、すぐ 2 冊購入して、1 冊は手元に、もう 1 冊は学生に見てもらうためにセミナー室においた。写真上は「広報みやこ」2011 年 6 月 1 日号より抜粋してつくられた冊子による。宮古で手に入れた。

この写真は映像でも、何回か見たことがある。赤い歩道橋、その近くで何かにつかまる男性の姿、市役所屋上から下を眺める人たちである。そして、道路に次々に押し寄せる恐ろしい津波である。



市役所から海岸の方に降り、宮古漁協や魚市場あたりを歩いた。この一帯は鰻ヶ崎というところで、津波の被害も大きかった。壊れた家屋などが目についた。高台から一帯を眺めるために、山道を登った。

途中で近所に住むおばあさんから、当時の生々しい様子を聞くことができた。写真下の高架道路近くまで津波が来たと、当時を思い出すよう熱心に話してくれた。名古屋から来たというと驚いていた。やはり、こうして現地の人から生の声を聞くのがなによりだ。



このあと田老に行ったが、またレポートしたい。

(2015 年 9 月 11 日)